

# メディアと方言

日本大学文理学部国文学科  
日本語基礎演習2

## はじめに

## ローカルヒーローとメディアと方言

## 観光・土産の宣伝に使われる方言

—ヴァーチャル方言のWeb vs 実店舗—

## メディアに現れる関西弁

## 方言キャラクターの比較

—漫画とアニメ、日本語版と韓国語版—

## ニセ方言使用の意識と実態

## あとがき

# メディアに現れる 関西弁

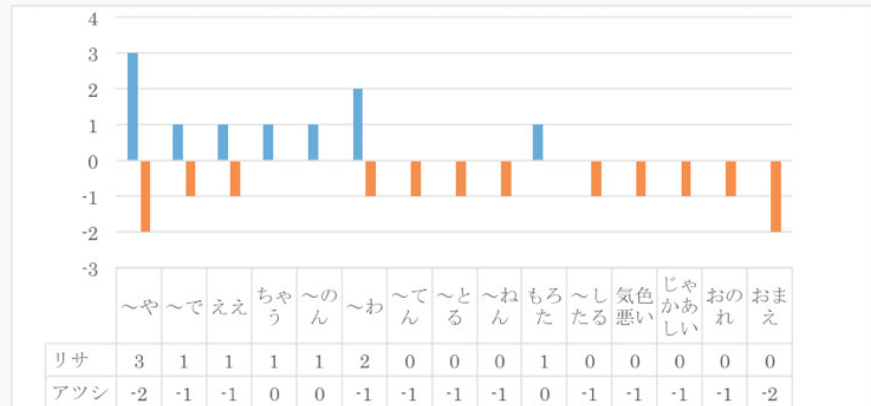


### 4.3. 『ラブ★コン』に見られる大阪方言

0312156 森真都香

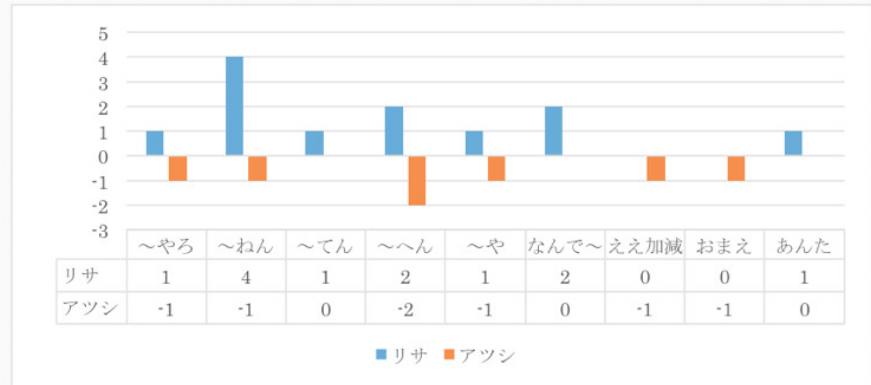
大阪を舞台とし、大阪出身の高校生がヒーローヒロインである『ラブ★コン』において、大阪弁が作品に与える影響を考える。

図1 非共通語の語数分布(小説)



※アツシのセリフ数は表現上マイナスとした

図2 非共通語の語数分布(映画)



大阪の方言ステレオタイプは、先行研究より「おもしろい」「怖い」などがある。

大阪弁を抜き出したこれらの結果より、

- ①基本会話が漫才風⇒おもしろいイメージを生む
- ②強い口調に感じられる大阪弁⇒怖いイメージを生む

ということが考えられる。リサ・アツシのキャラクターにも大阪のステレオタイプが反映されていることがわかる。

関東圏の人間から「関西弁」というと、関西で全体的に同じであるイメージの人が大半だと思われる。また、そのイメージは大阪弁のものであることが多い。しかし関西出身の人に質問した結果より、出身地によって方言に対して持っているイメージは異なることがわかった。

作品内では関東圏などからの一般的なイメージが利用されているといえる。出身地によって持っているイメージが異なるにも関わらず、ステレオタイプを作品内のキャラクターに用いることは、やはり読者や視聴者にわかりやすく印象づけるためであると考えられる。大阪弁は作品にこのような役割を持って用いられている。

### → 4.2 調査概要

### → 4.4. 『京都太秦物語』に見られる京都方言(西村真美)

### → 4.5. 阪急電車に見られる兵庫県弁(山下良奈)